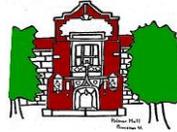


ななかま

プリンストン日本語学校新聞



平成24年度 No.28号

平成24年12月2日

文責 長尾重範

霜柱 さくさく少年 どきどきす
石投げて 響き渡るや 寒氷

行事予定表

12月9日 学芸会 12:00 学習発表会 13:40
12月16日 12月の最終日
秋祭り
1月6日 書き初め
文部科学省国際教育課長視察
1月13日 書き初め
Pコース・高等部入学説明会

日本の学校案内が届いています。

小学校から高等学校までの帰国子女受け入れ校の案内は、学校から直接パンフレットが届きますし、2013年度**学校便覧**も届いています。

入試や編入情報が必要な方はご利用できますので、申し出てください。

表現学習発表会の生徒が選ぶ優秀賞(11月11日分)は次のように訂正します。

竹内友子 宮内彩名

漢字検定の結果がきました！

合格した人はおめでとうございます。
合格にならなかった人は次回がんばってください。

ある学級では全員が合格しました。自分で時間をかけて練習することが必要なのはもちろんですが、友だちと競争して覚えることも効果があります。さらにお母(父)さんの支援が欠かせません。日々の精進がいつか大きな力になるのです。根気強くこつこつ続けることでしか常用漢字の完全習得はかないません。毎回の漢字ドリルも積極的にやるほうがよいでしょう。

大人(保護者・先生)の受検も可能です。自ら臨んでみるとその面白さに魅せられますし、親子でがんばることが子どもにより効果が出ると思います。合格のコツは、毎日少しずつつ少しずつ欠かさずドリルを続けること。忙しくても毎日10分間の時間は作れます。

今回は明年10月27日に行われます(残念ながら日程の都合で6月には実施できません)。

心シリーズ(3) 「心と体の共存」

心とは、「人間の精神作用のもとになるもの。また、その作用」(広辞苑)とあり、知識・感情・意志の総体、思慮、思惑、気持ち、思いやり、情け、情趣を解する感性、のぞみ、こころざし、特別な考え、などと表現されます。体の対義語として位置づきます。心は言葉としてこのように使われていますが、死んだら心はどこに行くのかという大昔からの人類の命題もあります。哲学として唯心なのか唯物なのかという対立もあります。私たちにはとらえにくいものではありませんが、いつも私たちとともにあるのが心です。

例えば、朝起きて学校に行こうと思って準備バスに乗りますし、気分がすぐれなければ学校を休もうとし、体は家にとどまります。この場合の前半は、心が決めたことに体が従って具体的な行動になります。心が体を支配しているといえます。そして後半は、体の調子が悪い場合には家にとどませようとし、体が心を支配しているようにみえます。

学校に行くという例では、学校に行かないといかないという外的な要因があつて心と体が作用しあいます。これがない状態、すなわち全くの一人きりの状態の時には、学校に行かなければという気持ちと学校に行くという行動は発生しませんから、相互関係はおこりえません。そう考えると、心と体の相互関係は、外的要因によって多くもたらされることがわかります。だとすれば、生きていくうえで外的要因が自分にとって大きな役割を担っていることになります。夏休みに学校に行く必要もなく、宿題もなく家でゆっくり過ごしているときには、心と体の働きは極端に少なくなっていると言えるでしょう。学校が始まればまた忙しい日々が始まり心と体はフル稼働状態になるでしょう。それを総括すると、前者と後者では大変な経験の差が生じてしまうということです。

心と体がいつも良好な関係にあり続けることは難しそうですが、それを良好ならしめるためには、外からの良質の刺激なり良質な環境なりをどのように用意するかが大事な鍵になりそうです。

脳は本来怠け者なので、刺激が乏しければとことん楽をしようします。夏休みの間延びした時間や、宿題もなく特別にすることもない時間を思い描けば、そのことはよく理解できます。

ここから心と体の共存の秘策が導き出されるのではないのでしょうか。自分から進んで良質な刺激や環境を作っていくことが得策かもしれません。